

函館市地域包括支援センター 西堀

令和2年度（2020年度）活動評価

令和3年度（2021年度）活動計画

北東部第1圏域



— 目 次 —

1. 圏域の現状と課題	・・・	1
2. 重点活動	・・・	3
3. 令和2年度活動評価および令和3年度活動計画		
ア 地域包括支援センターの運営	・・・	5
(ア) 総合相談支援業務	・・・	5
(イ) 権利擁護業務	・・・	9
(ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	・・・	13
(エ) 地域ケア会議推進事業	・・・	17
イ 生活支援体制整備事業	・・・	23
(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務	・・・	23
ウ 認知症総合支援事業	・・・	29
エ 地域住民等に対する広報・啓発活動	・・・	31
オ センター内スキルアップ	・・・	35

圏域の現状と課題

1. 人口の推計と年齢構成

(人)

	H28.3	H29.3	H30.3	H31.3	R2.3	R2.9	割合	全市
年少人口	2,275	2,244	2,174	2,087	2,038	2,004	9.2%	9.5%
生産年齢人口	13,630	13,231	12,915	12,573	12,372	12,306	56.3%	54.8%
高齢人口	7,370	7,467	7,545	7,596	7,587	7,554	34.5%	35.7%
(再) 65～74歳	3,694	3,685	3,686	3,651	3,624	3,613	16.5%	17.4%
(再) 75歳以上	3,676	3,782	3,859	3,945	3,963	3,941	18.0%	18.2%

2. 世帯構成 (R2.9)

(世帯)

	世帯数	割合	全市
高齢者単身世帯	2,984	23.8%	24.9%
高齢者複数世帯	1,535	12.2%	12.8%
その他	8,043	64.0%	62.4%

3. 事業対象者・要支援認定者の状況

(人)

	R1.9	R2.9	全市
認定者数	666	689	7,674
認定率	8.7%	9.2%	8.5%
給付実績	463	427	4,723
給付率	69.5%	62.0%	61.5%

4. 介護保険サービス事業所数 (R2.9)

(件)

	事業所数
居宅介護支援等 (※1)	12
地域密着型サービス (※2)	3

※1 居宅介護支援・小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護事業所の件数

※2 地域密着型サービス事業所（小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護を除く）の件数

5. 地域の状況

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により外出の機会が失われ、住民同士の交流の場が減少している。
- ・地域で介護予防活動などに取り組む人材や担い手が少ない。
- ・地域の認知症に対する理解は深まりつつあるが、支援が必要な高齢者に気づいても実際の支援や相談方法がわからず、認知症が疑われても専門医受診に至っていないケースが少なくない。
- ・介護予防の意識が高いとはいえ、本人とその家族、支援者なども介護サービスの利用をすすめる傾向があり、ニーズに対してサービス利用が優先され、地域の社会資源が活用できていない。
- ・高齢者の同居家族が適切な制度やサービス利用につながっておらず、それにより本人の生活に支障が生じているケースもある。

6. 地域住民と専門職の状況

- ・介護支援専門員（以下「ケアマネジャー」という。）が民生児童委員（以下「民生委員」という。）など地域の担い手と連携することに難しさを感じている。
- ・高齢者本人を取り巻く支援者、関係者同士のつながりが希薄で、連携が図れていない。

7. 地域における相談内容の状況

- ・専門医未受診で認知症の症状が進行し、在宅生活が困難になってからの相談が多い。
- ・認知症、独居、家族の問題、医療の問題、生活困窮など複数の問題を持つケースが増えてきている。
- ・スーパー等が距離的に遠く、買い物に行けないなどの理由でサービス利用の相談があるが、買い物困難に対しては高齢者自身の意識やADLの問題が背景にある可能性が考えられる。

8. 日常生活圏域レベルの地域課題の整理に基づく地域課題

優先順位	地域の問題	問題が生じている要因	地域課題
1	健常または早期の段階からのフレイル予防のためのセルフケアの意識に乏しい。	フレイルの知識がない/セルフケアの必要性や効果を知らない/「老いること」が他人事/自分の将来像が描けない/生活目標がない/公助に頼ろうとする人が多い	フレイル予防の必要性を理解し、早い段階からセルフケアに取り組むことができる。
2	認知症が疑われる人に周囲が気づいても、早期相談につながらず、症状が悪化し、本人の希望する生活が送れなくなる。	相談先を知らない/認知症の人への支援の成功例を知らない/相談すると関わらなければならないと思っている/認知症だと近所に思われたくない/メディア報道の影響で認知症を否定的に捉えている人がいる	認知症の相談先を知り、相談後のイメージができることで、早期に相談できる。
3	支援が必要な高齢者に気づくことができず、早期の支援につながりづらい。	コロナ禍で地域の見守り活動がままならない/近所付き合いが希薄/地域の“見守り”の認識に差がある/近隣同士の見守りを“見守り”と思っていない/支援が必要かどうかのラインがわからない/どの程度で相談していいかわからない/相談したあとの動きがイメージできない	近隣住民が支援が必要な高齢者に気づき、地域包括支援センター（以下「センター」という。）に早期に相談できる。
4	他分野（医療、児童、障がい等）の関係機関との連携が不十分で、世帯への支援が円滑にすすまない。	支援者が世帯の全体像を捉えられていない/世帯全体をみて他分野とつながろうとする意識が少ない/自分の専門分野以外を知ろうとしない/お互いの役割や連携の在り方を話し合うことができている/個人情報への壁	お互いの理解を深めることで、他分野（医療・児童・障がい等）と連携して支援ができる。
5	ケアマネジャーと地域の支援者が、本人の状況を共有できず、より適切な支援につながらない。	高齢者自身が自分に関わっている人が誰かを理解していない/ケアマネジャーにICFの視点があっても、ケアマネジメントに生かされていない/個人情報の壁/お互いの役割を知らない/民生委員とケアマネジャーの連携ガイド（以下「連携ガイド」という。）が活用されていない	ケアマネジャーがICFの視点でケアマネジメントすることで、地域の支援者と連携することができる。

重点活動

番号	地域課題	各業務での取組
1	フレイル予防の必要性を理解し、早い段階からセルフケアに取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報紙や出前講座を通じて、フレイル予防やセルフケアの必要性を周知する。 ・ 見守りネットワーク事業等での訪問時に、フレイル予防に関するリーフレットを配布する。 ・ 屋外での健康づくり教室（ウォークラリー）の開催を検討する。 ・ 民間や有志による地域活動（社会資源）や、高齢者のセルフケアの実態を把握する。 ・ 介護予防についてセンター内で共通認識を図る。
2	認知症の相談先を知り、相談後のイメージができることで、早期に相談できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報紙や出前講座等を通じて、相談先や相談後のイメージを周知する。 ・ 見守りネットワーク事業等での訪問時に、認知症に関するリーフレットを配布する。 ・ 地域（民生委員等）に対して、認知症の方への支援の好事例を紹介する。 ・ 民生委員と支援が必要な高齢者について情報共有する。 ・ 認知症カフェの開催を検討する。
3	近隣住民が支援が必要な高齢者に気づき、センターに早期に相談できる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報紙や出前講座等を通じて、お互いに（隣近所）気にかけることの大切さを周知する。 ・ 見守りネットワーク事業等での訪問時に、保健師部会作成の見守りリーフレットを配布する。 ・ 鍛冶団地住民や民生委員等と地域課題に基づき、団地内での見守り体制構築に向けた取り組みについて話し合う。
4	お互いの理解を深めることで、他分野（医療・児童・障がい等）と連携して支援ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他分野の関係機関と、個別ケース支援や各種研修会等への参加を通じてネットワークを構築する。 ・ 圏域のケアマネジャーから、医療機関や多職種との連携に問題があるケースを聞き取る。 ・ 他分野の役割や制度理解のための勉強会の開催を検討する。 ・ 他分野の関係機関との連携のタイミング等を振り返る事例検討会の開催を検討する。 ・ 医療・介護連携支援センターとの懇談会へ参加する。
5	ケアマネジャーがICFの視点でケアマネジメントすることで、地域の支援者と連携することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアマネジメント研修（合同・圏域）を開催する。 ・ 直営、委託ケースのケアプランに、ICFの視点が盛り込まれているかチェックする。 ・ ケアマネジャーと地域（民生委員等）をつなぐ支援を行う。 ・ ケアマネジャーや地域（民生委員等）と地域課題に基づき、つながりや連携に必要な取り組みについて話し合う。

令和2年度活動評価および令和3年度活動計画

ア 地域包括支援センターの運営

(ア) 総合相談支援業務

【根拠法令】介護保険法第115条の45第2項第1号

【目的】地域の高齢者等が住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続していくことができるよう、地域における関係者とのネットワークを構築するとともに、高齢者等の心身の状況や生活実態、必要な支援等を幅広く把握し、相談を受け、地域における適切な保健・医療・福祉サービス、関係機関または制度の利用につなげる等の支援を行う。

事業内容	令和2年度 活動評価				
	実績（実施回数、内容、実施方法等）			活動目標に対する評価	
総合相談	○利用者基本情報作成状況 (件、人)				
	目標数値	H30.3 790	R1.12 767	R2.12 788	
	作成数	予防給付	276	179	135
		(再)新規	63	41	27
		見守り	164	97	0
		(再)新規	151	82	0
		その他	384	305	259
		(再)新規	234	167	132
	合計(A)		824	581	394
	(再)新規		448	290	159
	高齢者人口(B)		7,545	7,588	7,530
	実態把握率 (A/B)		10.9%	7.7%	5.2%
	○総合相談対応件数 (件)				
	実件数 (C)	H30.3 710	R1.12 581	R2.12 468	
	延件数	963	843	636	
	再) 新規の相談件数 (件)				
	実件数(D)	H30.3 160	R1.12 124	R2.12 118	
	新規の相談率(D)/(C)		22.5%	21.3%	25.2%
	○相談形態内訳 (延) (件)				
	面接	H30.3 131	R1.12 123	R2.12 51	
	電話	464	416	327	
	訪問	362	300	252	
	その他	6	4	6	
	○対象者の年齢内訳 (実) (人)				
	65歳以上	H30.3 685	R1.12 570	R2.12 452	
65歳未満	25	11	16		
○相談歴のある民生委員 (地域別) (人)					
	定数	相談歴あり (現職)			
富岡町	27	13	48.1%		
中道	14	7	50.0%		
鍛冶	11	4	36.4%		
<p>【活動目標】 ・これまでセンターに相談したことがない地域の担い手からの相談が増える。</p> <p>【評価】 ・令和2年12月時点でセンターに相談した民生委員12人の内、5人がセンターへの相談歴がない方だった。民生委員からの相談は減少したが、相談歴のない方が約半数を占めたため、目標を達成できたと評価できる。以前に見守りネットワーク事業の情報交換を担当した職員や、安否確認で協働した職員を指名しての相談が多く、センターへの相談を経験すると、その後も繰り返し相談してくれることや、直接顔を合わせて話をする機会が相談のきっかけになることがわかった。来年度は中道、鍛冶で見守りネットワーク事業の実施が予定されており、民生委員と個別に情報交換する機会を持つことで、地域の担い手からの相談が増えると考え。</p> <p>・町会や在宅福祉委員からの相談が少ないのは、兼務している民生委員の立場で相談される方が多いためである。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の見守り活動がままならず、支援を必要とする高齢者の発見が遅れることが危惧される。地域の担い手や地域住民に見守りの大切さを改めて周知していくとともに、高齢者の異変を発見しやすい立場にある関係機関とのネットワークを強化していく必要がある。</p>					



令和3年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
・地域の担い手や関係機関の関わりがきっかけで、センターとつながる高齢者が増える。	<p>1 地域の担い手や関係機関とのネットワーク強化</p> <p>①町会単位に担当職員を配置し、担当職員を中心に地域の情報収集や地域の担い手からの相談や依頼に対応する。</p> <p>②個別ケースの支援を通じて、地域の担い手や他分野の関係機関との連携を図る。</p> <p>③医療・介護連携支援センターとの懇談会等に参加し、医療と介護分野の連携について意見交換する。</p> <p>2 地域の担い手との情報共有</p> <p>①見守りネットワーク事業での民生委員との情報交換で、見守りの大切さを改めて伝え、対象者以外の気になる高齢者についても聞き取りし、必要に応じて実態把握や担当するケアマネジャーとつなげる等の支援を行う。</p> <p>②地域の担い手が見守っている高齢者の情報を共有し、支援の必要性を検討する。</p> <p>③地域の担い手の関わりがきっかけで支援につながったケースの状況を、確実にフィードバックするための仕組みをセンター内で検討する。</p> <p>3 相談状況の把握、分析</p> <p>①町毎に相談件数や相談内容を集計し、結果はデータベース化してセンター全体で共有する。</p> <p>②相談受付時に本人、家族にセンターへ相談するきっかけとなった紹介元を聞き取り、センターへの相談を勧めた関係機関を把握する。</p>	・ネットワーク構築機関、回数 ・懇談会の開催、参加回数 ・相談対応件数 ・相談内容内訳 ・相談者の続柄内訳 ・新規の相談件数 ・本人、家族がセンターに相談するきっかけ ・相談歴のある民生委員の割合

(7) 総合相談支援業務

事業内容	令和2年度 活動評価			
	実績（実施回数、内容、実施方法等）			活動目標に対する評価
総合相談	○相談者の続柄内訳（延・重複あり）（件）			
		H30.3	R1.12	R2.12
	本人	474	429	324
	家族親族	475	446	287
	民生委員	26	28	16
	町会・在宅福祉委員	2	1	0
	知人・近隣住民	15	23	6
	ケアマネジャー	119	101	69
	介護保険事業所	29	31	11
	医療機関	80	89	51
	行政機関	25	8	10
	その他	24	13	10
	その他の内訳 （ 住宅都市施設公社、新聞販売所、薬局、郵便局 函館中央警察署（生活安全課、地域課） コンビニエンスストア ）			
	○相談内容内訳（延・重複あり）（件）			
		H30.3	R1.12	R2.12
	介護保険・総合事業	695	638	470
	保健福祉サービス	131	99	90
	介護予防	18	7	1
	健康	33	45	15
	認知症	64	33	22
	住まい	51	42	33
	権利擁護	14	9	4
	その他	74	47	43
	○本人、家族がセンターへ相談するきっかけ（R2.10～R2.12）（件）			
	相談歴あり	20		
クチコミ	1			
出前講座	0			
見守りネットワーク	7			
紹介	23			
(内訳)	病院	7		
	クリニック	3		
	市役所	5		
	亀田福祉課	4		
	生活保護ケースワーカー	2		
	介護認定調査員	1		
介護支援専門員	1			
ホームページ（市）	2			
ホームページ（包括）	0			
市政はこだて	7			
センター広報紙	0			
その他	6			
○ネットワーク構築方法				
<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員協議会定例会への参加 ・町会定例会への参加 ・地域密着型運営推進会議への参加 ・個別ケース対応を通じての連携 ・センター広報紙等の配布 ・各種研修、懇談会への参加 				
【活動目標】 ・潜在的に相談できていない人からの相談が増える。 【評価】 ・本人、家族からの相談が減少しているため、目標は達成できなかったと評価する。本人、家族がセンターへ相談するきっかけとしては、病院や行政に相談先としてセンターを紹介されるケースが多かった。令和2年10月から調査を開始したため、分析には更なるデータの積み上げが必要だが、直接的な相談でなくても、センターへの相談を勧めてくれることで、本人、家族がセンターにつながっていたことがわかった。クリニックからの相談、紹介が少ない現状があるため、ここにアプローチすることで、更に潜在的に相談できていない人からの相談が増えると考えられる。 ・数年前の見守りネットワーク事業での訪問を覚えていて、センターへ相談されるケースもあり、戸別訪問でのセンター周知が効果的であることがわかった。 ・個別ケース対応や地域ケア会議、センター広報紙の配布等を通じて、他分野とのネットワーク構築が図られた結果、多様な関係機関から相談が寄せられるようになってきた。今後もより多くの機関とつながることを意識してネットワーク構築に取り組んでいく。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、家族や友人、近隣住民等と顔を合わせる機会が減少している。人とつながりを持つことや、お互いに見守ることの大切さの周知に継続して取り組むとともに、高齢者の異変を発見しやすい立場にある関係機関とのネットワークを強化していく必要がある。 ・認知症に関する相談は、症状が進行しているが専門医未受診で、すでに在宅での生活が困難になっており、権利擁護対応に移行するケースが多い。早期の相談、受診ができるよう周知を強化する必要がある。				

令和3年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>・地域の担い手が認知症が疑われる高齢者について、症状が進行する前に相談することができる。</p>	<p>1 地域の担い手と認知症の相談先や相談のタイミングの共有</p> <p>①センターの役割や認知症の相談先、相談する際のポイント等を周知する。</p> <p>②相談のイメージを持ってもらえるよう、認知症の方への支援の好事例を紹介する。</p> <p>③新規で実態把握したケースについて、認知症高齢者の日常生活自立度を集計し、どのレベル（I～M）での相談が多いか把握する。</p>	<p>・相談対応件数</p> <p>・相談内容内訳</p> <p>・新規ケースの認知症高齢者の日常生活自立度</p>

(イ) 権利擁護業務

【根拠法令】介護保険法第115条の45第2項第2号

【目的】高齢者等が地域において尊厳のある生活を維持し、安心して生活を行うことができるよう、専門的・継続的な視点から、高齢者等の権利擁護のため、必要な支援を行う。

事業内容	令和2年度 活動評価				
	実績（実施回数、内容、実施方法等）			活動目標に対する評価	
権利擁護相談 （高齢者虐待・困難事例への対応、成年後見制度の利用促進・消費者被害の防止に関する対応）	○権利擁護相談対応状況				
	・対応件数				
		H30.3	R1.12	R2.12	(件)
	ケース数（実）	49	30	31	
	（再）医療と連携あり	16	12	10	
	対応回数（延）	453	234	306	
	・対応事案内訳（実・重複あり）				
		H30.3	R1.12	R2.12	(件)
	高齢者虐待	2	3	0	
	終結数	1	2	0	
	終結率	50.0%	66.7%	0.0%	
	高齢者虐待疑い	—	6	6	
	セルフネグレクト	—	0	0	
	成年後見等	—	6	2	
	消費者被害	—	0	0	
	困難事例	—	27	27	
	その他	—	4	7	
	・相談者・通報者（新規ケース・重複あり）				
		H30.3	R1.12	R2.12	(件)
	ケース数	—	16	20	
ケアマネージャー	—	6	1		
民生委員	—	1	0		
本人	—	2	1		
親族	—	2	5		
警察	—	1	6		
通報票	—	0	2		
医療機関	—	2	3		
クリニック	—	0	0		
その他	—	2	4		
・困難事例の課題要素（項目重複あり）					
	H30.3	R1.12	R2.12	(件)	
認知症	—	16	10		
知的障害	—	3	1		
精神疾患	—	6	5		
支援拒否	—	2	4		
急激なADL低下	—	1	5		
家族・親族が近くにいない、独居	—	3	13		
家族の問題	—	21	10		
サービス依存	—	0	0		
医療の問題	—	5	11		
アルコール	—	2	2		
薬物	—	0	0		
経済困窮	—	4	10		
苦情	—	2	0		
その他	—	0	5		
上記に当てはまらない場合	—	4	7		
【活動目標】					
・地域の担い手が、問題を抱えた高齢者に気づき、センターに相談・通報することができる。					
【評価】					
・高齢者の異変に気付く視点（見守り）について、広報紙へ記事を掲載し周知したが、民生委員や地域住民からの相談は少なく、目標は達成できなかったと評価する。					
・新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の担い手による見守り活動がままならず、支援を必要とする高齢者の発見が遅れることが危惧される。民生委員や地域住民向けにセンターの役割や事例を用いた権利擁護の重要性について周知していくとともに、高齢者の異変を発見しやすい立場にある関係機関にも、見守りの大切さを改めて周知する必要がある。					
・高齢者虐待のケースは0件だったが、異変に気付く視点が不足し通報につながっていない可能性がある。今後、虐待を発見しやすい立場にある介護保険事業所職員を対象に、高齢者虐待に関する研修会の開催を検討していく。					
【活動目標】					
・社会福祉士以外の職員が、ネットワークを構築することができる。					
【評価】					
・社会福祉士以外の職員も、個別ケース対応を通じて警察や障がい、児童分野等の関係機関と連携できていることから、目標を達成できたと評価する。特に、今年度は亀田福祉課と連携したケースが6件と多かった。					
・社会福祉士が対応している権利擁護ケースで、圏域担当弁護士へ相談に行った際、他職種と一緒に訪問することで、弁護士との顔つなぎを行い、弁護士との連携方法について学ぶ機会を設けた。					

令和3年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>・地域の担い手や高齢者に関わる機関が高齢者の異変に気づき、支援が困難化する前にセンターに相談、通報することができる。</p>	<p>1 早期相談、通報に向けた取り組み</p> <p>①民生児童委員協議会定例会や町会役員会での周知</p> <p>・ケースが困難化しそうな要因（認知症・独居・家族の問題・経済困窮等）を事例等を用いて周知し、異変があった際にセンターに相談、通報してもらえるよう働きかける。</p> <p>・保健師部会作成の見守りリーフレットや広報紙を配布し、見守りの大切さを改めて周知する。</p> <p>②見守りネットワーク事業での民生委員との情報交換の際に、ケースが困難化しそうな要因を伝え、ケースが困難化する前に相談してもらえるよう伝える。</p> <p>2 医療と介護の連携</p> <p>①地域のクリニックとの連携強化のため、社会福祉士部会の取り組みとして、医療・介護連携支援センターと懇談会を開催し意見交換する。</p> <p>②意見交換後の取り組みに備え、新規で実態把握したケースの主治医をデータ化し、圏域の高齢者の通院先を把握する。</p>	<p>・権利擁護相談対応件数</p> <p>・権利擁護対応事案内訳</p> <p>・相談・通報者内訳</p> <p>・困難事例の課題要素</p> <p>・権利擁護に関わる研修会や事例検討会の開催回数、アンケート集計</p> <p>・権利擁護業務に関わる研修会・事例検討会の職種別参加状況</p> <p>・権利擁護業務における主な連携機関</p> <p>・アンケートの結果</p>
<p>・介護保険事業所の職員が高齢者虐待について理解することができる。</p>	<p>1 高齢者虐待に関する研修会の開催</p> <p>①高齢者虐待を早期に発見し、センターへ速やかに通報できるよう、介護保険事業所職員を対象に研修会を開催する。</p> <p>②研修会終了後にアンケートを実施し評価する。</p>	

(イ) 権利擁護業務

事業内容	令和2年度 活動評価																	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																
権利擁護相談 （高齢者虐待・困難事例への対応、成年後見制度の利用促進・消費者被害の防止に関する対応）	○権利擁護業務におけるスキルアップ対策 ・権利擁護業務にかかわる研修会や事例検討会の開催回数 (回) <table border="1" data-bbox="363 376 935 504"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2.12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高齢者虐待</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>困難事例</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>成年後見・消費者被害</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> ● 予定していたテーマ 「虐待通報を受けた時の対応方法について」		H30	R1	R2.12	高齢者虐待	2	1	0	困難事例	1	1	0	成年後見・消費者被害	0	0	0	・権利擁護に関する研修会や事例検討会が複数中止となり、参加する機会がなかったが、令和3年2月に行われる予定の法テラスとの懇談会には社会福祉士と保健師が出席予定。 ・権利擁護対応に関するケースで医療と連携したケースは10件であり、内クリニックと連携したケースは4件（2医療機関）であった。また、困難事例の課題要素で医療の問題があるケースがの割合が令和元年12月末の16.7%から令和2年12月末の35.5%に増加している。今後、社会福祉士部会における、クリニックとセンターの連携の取り組みに基づき、クリニックとの連携方法について、センターとしても検討する必要がある。 【活動目標】 ・社会福祉士以外の職員も、相談の入口から権利擁護対応の意識を持ち、支援の方向性を考えることができる。 【評価】 ・権利擁護の視点でのアセスメントがまだ十分ではないため、目標は達成できなかったと評価する。今後、どのようなケースが権利擁護対応となるか、センター全体で意識統一し、スキルアップを図る必要がある。（令和3年度の活動目標に関してはP36に記載） ・権利擁護対応件数31件中、社会福祉士が主担当として対応したケースが13件（約42%）と多いため、他職種も主担当として経験を積み、センター全体の対応能力を上げる必要がある。 ・令和3年3月に高齢者虐待の対応方法について、センター内研修会開催予定。 ・月1回、センター内で実施しているモニタリング判定会議で、困難ケースの支援経過を共有し、支援の方向性や終結等を3職種で確認しているが、高齢者虐待の緊急性の判断について、必ずしも複数職種で判断できていないため、センターでの対応方法について見直す必要がある。
		H30	R1	R2.12														
	高齢者虐待	2	1	0														
	困難事例	1	1	0														
	成年後見・消費者被害	0	0	0														
	○権利擁護業務にかかわる研修会・事例検討会の参加状況 (回) <table border="1" data-bbox="363 683 935 810"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2.12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高齢者虐待</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>困難事例</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>成年後見・消費者被害</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>		H30	R1	R2.12	高齢者虐待	2	3	1	困難事例	0	0	0	成年後見・消費者被害	6	3	1	
		H30	R1	R2.12														
	高齢者虐待	2	3	1														
	困難事例	0	0	0														
	成年後見・消費者被害	6	3	1														
○権利擁護業務における主な連携機関 ・市 保健福祉部 障がい保健福祉課、亀田福祉課 ・市 子ども未来部 次世代育成課 ・函館市住宅都市施設公社 ・中央警察署 ・明和園 ・森越・兼平法律事務所 ・医療機関 市立函館病院 ゆのかわメンタルクリニック 国立函館病院 いとうメンタルクリニック 五稜郭病院 医師会病院 亀田病院 なるかわ病院 西堀病院																		

令和3年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標

(ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

【根拠法令】介護保険法第115条の45第2項第3号

【目的】高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、個々の高齢者の状況や変化に応じて、包括的かつ継続的に支援していくための地域における多職種相互の連携・協働の体制づくりや個々の介護支援専門員に対する支援を行う。

事業内容	令和2年度 活動評価																																		
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																																	
包括的・継続的ケアマネジメント	<p>○合同ケアマネジメント研修 テーマ：「アセスメントに役立つ！！ICFの活用法」 ①令和2年9月24日（木）14：00～17：00 ②令和2年9月25日（金）9：00～12:00 同じ内容で2回Web開催</p> <p>・アンケート集計結果</p> <table border="1"> <caption>(事業所、人)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業所数</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>ケアマネジャー数</td> <td>33</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>内参加者</td> <td>17</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table> <p>(人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>参加者経験年数</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年未満</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>1年以上3年未満</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>3年以上5年未満</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>5年以上</td> <td>11</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table> <p>(人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ICFを活用したアセスメントを 今後の業務で活用できるか</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>活用できる</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>活用できない</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>・アンケート意見 考え方はわかってきている わかりやすかった、できそう ケースを理解しやすい 時間の余裕がない 難しい 時間がかかる 身についていない</p> <p>○圏域ケアマネジメント研修 テーマ：ICFの視点でプラン「総合的な課題」まで ～事例を用いて一緒にアセスメントしましょう～ ①令和3年2月15日 亀田交流プラザ（開催予定） ②令和3年3月15日 亀田交流プラザ（開催予定）</p>		R1	R2	事業所数	12	12	ケアマネジャー数	33	33	内参加者	17	17	参加者経験年数	R1	R2	1年未満	0	0	1年以上3年未満	4	4	3年以上5年未満	2	1	5年以上	11	12	ICFを活用したアセスメントを 今後の業務で活用できるか	R2	活用できる	14	活用できない	3	<p>【活動目標】 多くのケアマネジャーが、ICFの考え方を活用したアセスメントができる。</p> <p>【評価】 （合同ケアマネジメント研修） ・令和元年度と同様、基礎を学ぶことを重点に演習を行った。アンケートの結果、参加者の約82%が、ICFを活用したアセスメントを今後の業務に「活用できる」と回答し、一定の効果があつたと評価できる。 ・圏域の居宅介護支援事業所のケアマネジャーの約半数が研修に参加したが、5年以上の経験年数が7割を占め、今後経験年数の少ないケアマネジャーへのアプローチが課題である。 （圏域ケアマネジメント研修） ・意識向上を図る目的も含め、圏域の主任ケアマネジャーと共に研修会を企画した。研修に使用する資料や事例の作成など役割分担し準備をすすめた。 ・ICFの視点で得た各領域の共通の課題から「生活上の自立を阻害している問題」「自立する意識を阻害している問題」にフォーカスして、解決すべき行動（取り組み）「総合的な課題」まで共に演習する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響で2月は延期とし、今後状況をみながら3月以降に開催する予定。 ・圏域の主任ケアマネジャーが研修会の企画などに参画することで、事業所内での指導的な役割である意識の強化を図ることができた。</p>
		R1	R2																																
	事業所数	12	12																																
	ケアマネジャー数	33	33																																
	内参加者	17	17																																
	参加者経験年数	R1	R2																																
	1年未満	0	0																																
	1年以上3年未満	4	4																																
	3年以上5年未満	2	1																																
	5年以上	11	12																																
ICFを活用したアセスメントを 今後の業務で活用できるか	R2																																		
活用できる	14																																		
活用できない	3																																		

令和3年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
<p>・多くのケアマネジャーがICFの視点でケアマネジメントできる。</p>	<p>1 合同ケアマネジメント研修 目 標：ICFの考え方を活用したケアマネジメントが実践できる テーマ：「ICFの考え方を活用し、ケアプランを作成しよう」 内 容：①前年度の振り返り ②事例を用いた研修 ・ ICF分類を用いた情報整理 ・ 課題整理総括表を用いた情報の整理 実 施：2回</p> <p>2 圏域ケアマネジメント研修等 ①ICFの視点でケアマネジメントができるよう事例を用いて、プランの「総合的な課題に対する具体策の提案と目標」について、専門職（セラピスト、訪問看護、薬剤師など）を交えてグループワークで意見交換し、自立支援に向け共に演習を行っていく。 ・ 利用者の自立した日常生活を目標としたプラン作成ができる。 ・ 自立支援型個別ケア会議の検討ケースのイメージが持てる。 ②居宅介護支援事業所管理者、主任ケアマネジャーと研修会を企画し、事業所内での指導的な役割の意識強化を図ると共に、経験年数の少ないケアマネジャーへ研修会参加への声かけをしてもらう。 ③地域連携を目的とした懇談会、研修会の開催 ・ ケアマネジャーが地域の民生委員と連携を強化できる懇談会、「民生委員とケアマネジャーの連携ガイド」を活用した研修会を企画開催する。 ・ ケアマネジャーが必要な地域の社会資源情報を共有する。 ・ 地域と連携する意識の強化が図れる。 ・ 多職種との連携困難事例検討会を開催し、連携強化を図る。</p> <p>3 ケアプランチェック ①新規または更新のケアプランコメント欄に、セルフケア、インフォーマルサービス等の追記を助言する。 ・ ICFの視点(特に地域と繋がる意識)の強化を図る。 ②基本情報や新規または更新のケアプランにインフォーマルサービスの記載データを積み上げていく。 ・ ケアマネジャーがICFの視点でのマネジメントが十分理解できているか集積し、今後の研修会開催への根拠とする。</p>	<p>・ ケアマネジメント研修開催回数 ・ 研修参加者数、アンケート集計 ・ 多職種相互の連携、協働意識調査</p> <p>・ ケアプランチェック集積</p>

(ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

事業内容	令和2年度 活動評価																																							
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																																						
包括的・継続的ケアマネジメント	<p>○居宅介護支援事業所との懇談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 圏域の居宅介護支援事業所との懇談で得た意見（研修会について） 少人数の方が参加者から意見が出やすい 今年度も同じような規模で開催してほしい、人数がちょうどよかった 研修会がほとんど延期となり、他事業所とのつながりが希薄となっているため情報交換ができない ICFが苦手なので研修会に参加したい <p>（民生委員との連携について） ケースを通じてお互いに連携を図っていききたい 民生委員と顔を合わせる機会があるのであれば研修会に参加したい 民生委員同士で「見守り」をするポイントのシートがあれば個人の主観ではない情報でセンターに相談できる 全地域ではなく圏域内での取り組みの方がすすみやすい お互いの役割について理解不足なので、気軽に連絡を取り合えるような研修会や勉強会を開催してほしい</p> <p>（個別地域ケア会議について） 対象となるケースがあったら開催してほしい 独居で認知症のケースがあるので開催してほしい</p>	<p>（居宅介護支援事業所との懇談）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 圏域の居宅介護支援事業所管理者、主任ケアマネジャーとの連携強化を図る目的で、各事業所を訪問し懇談した。 ・ 個別ケア会議開催に繋がる情報や民生委員との連携強化についての意見を伺うことができ研修会の参考とした。 ・ 民生委員との連携を強化するため「民生委員とケアマネジャーの連携ガイド」を活用した研修会を企画していたが、新型コロナウイルス感染症への感染リスクを勘案し延期、来年度状況判断して開催方法なども含め検討することとした。 <p>【活動目標】 ケアマネジャーが地域とのつながりを視野に入れたケアマネジメントができる。</p> <p>【評価】 ・ 令和2年4月から12月まで圏域の居宅介護支援事業所の新規、更新プランのチェックを行い、62件中プランにインフォーマルの記載があるのが17件、記載はないが基本情報にはあるケースが28件あった。また、インフォーマル記載の17件中家族の支援が14件、地域が3件と地域が少なくまだ達成できていないと評価する。 ・ 一定程度ICFの視点でのアセスメントはできている反面、プランに反映できていない現状が明らかとなったため、年度途中からプランのコメント欄に、ICFの視点での助言を盛り込み意識強化を図った。 ・ 今後助言以外に、どう意識づけていくかが今後の課題である。 ・ まだケアマネ支援のデータの積み上げは少ないが、圏域の居宅介護支援事業所は全市と比較し、支援に至った要因が「対象者の問題」の次に「地域連携・社会資源」が多いことから、地域との連携について困難を感じており、十分に地域とのつながりを視野に入れたケアマネジメントができていないことがわかった。今後は地域との懇談会や研修会開催に力を入れた取り組みが必要である。 </p>																																						
	<p>○ケアマネジャーへの個別支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対応件数 <p style="text-align: right;">(件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30.3</th> <th>R1.12</th> <th>R2.12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケース数</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>終結件数</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>終結率</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>		H30.3	R1.12	R2.12	ケース数	6	10	28	終結件数	6	10	28	終結率	100.0%	100.0%	100.0%																							
		H30.3	R1.12	R2.12																																				
	ケース数	6	10	28																																				
終結件数	6	10	28																																					
終結率	100.0%	100.0%	100.0%																																					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別支援に至った要因 ※重複あり <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>全市</th> <th>圏域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケアプラン作成の過程</td> <td>21.1%</td> <td>26.7%</td> </tr> <tr> <td>関連制度理解</td> <td>20.0%</td> <td>26.7%</td> </tr> <tr> <td>サービス調整</td> <td>7.4%</td> <td>20.0%</td> </tr> <tr> <td>地域連携・社会資源</td> <td>21.1%</td> <td>40.0%</td> </tr> <tr> <td>多職種連携</td> <td>5.3%</td> <td>13.3%</td> </tr> <tr> <td>医療連携</td> <td>10.5%</td> <td>13.3%</td> </tr> <tr> <td>ケアマネ自身の問題</td> <td>28.4%</td> <td>13.3%</td> </tr> <tr> <td>事業所の問題</td> <td>4.2%</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>対象者の問題</td> <td>41.1%</td> <td>46.7%</td> </tr> <tr> <td>家族の問題</td> <td>11.6%</td> <td>13.3%</td> </tr> <tr> <td>家族関係の問題</td> <td>16.8%</td> <td>26.7%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>11.6%</td> <td>6.7%</td> </tr> </tbody> </table>		全市	圏域	ケアプラン作成の過程	21.1%	26.7%	関連制度理解	20.0%	26.7%	サービス調整	7.4%	20.0%	地域連携・社会資源	21.1%	40.0%	多職種連携	5.3%	13.3%	医療連携	10.5%	13.3%	ケアマネ自身の問題	28.4%	13.3%	事業所の問題	4.2%	0.0%	対象者の問題	41.1%	46.7%	家族の問題	11.6%	13.3%	家族関係の問題	16.8%	26.7%	その他	11.6%	6.7%	
	全市	圏域																																						
ケアプラン作成の過程	21.1%	26.7%																																						
関連制度理解	20.0%	26.7%																																						
サービス調整	7.4%	20.0%																																						
地域連携・社会資源	21.1%	40.0%																																						
多職種連携	5.3%	13.3%																																						
医療連携	10.5%	13.3%																																						
ケアマネ自身の問題	28.4%	13.3%																																						
事業所の問題	4.2%	0.0%																																						
対象者の問題	41.1%	46.7%																																						
家族の問題	11.6%	13.3%																																						
家族関係の問題	16.8%	26.7%																																						
その他	11.6%	6.7%																																						
<p>○ケアプランチェック (R2年4月～12月までの委託新規、更新プラン62件中)</p> <p style="text-align: right;">(件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>インフォーマルサービスの記載</th> <th>件数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケアプランにあり</td> <td>17</td> <td>27.4%</td> </tr> <tr> <td>(内訳) 家族支援</td> <td>14</td> <td>82.0%</td> </tr> <tr> <td>地域の支援</td> <td>8</td> <td>47.0%</td> </tr> <tr> <td>基本情報にあり</td> <td>28</td> <td>45.2%</td> </tr> <tr> <td>基本情報、ケアプランともになし</td> <td>17</td> <td>27.4%</td> </tr> </tbody> </table>	インフォーマルサービスの記載	件数	割合	ケアプランにあり	17	27.4%	(内訳) 家族支援	14	82.0%	地域の支援	8	47.0%	基本情報にあり	28	45.2%	基本情報、ケアプランともになし	17	27.4%																						
インフォーマルサービスの記載	件数	割合																																						
ケアプランにあり	17	27.4%																																						
(内訳) 家族支援	14	82.0%																																						
地域の支援	8	47.0%																																						
基本情報にあり	28	45.2%																																						
基本情報、ケアプランともになし	17	27.4%																																						

令和3年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
<p>・圏域のケアマネジャーのニーズに合った研修会等を開催し、対応力の向上を図る。</p>	<p>1 ケアマネ支援（別記第4号様式）のデータ分析</p> <p>①支援に至った要因のデータを集積し、圏域のケアマネジャーが支援困難と感じている要因を分析する。</p> <p>②分析結果をもとに圏域の居宅介護支援事業所の研修会や事例検討会を企画し開催する。</p> <p>③研修会終了後にアンケートを実施し評価する。</p> <p>2 居宅介護支援事業所との懇談会</p> <p>①圏域の居宅介護支援事業所管理者、主任ケアマネジャーとの懇談会を開催し、ケアマネジャー同士のネットワーク構築を図りつつ、圏域内の研修や事例検討会についての意見や研修のあり方を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域のケアマネジャーのニーズを把握する。 ・圏域の居宅介護支援事業所管理者、主任ケアマネジャーとの懇談会等にて地域との連携が難しいと感じている状況や原因の把握を行う。 ・複合的課題をもった世帯で自宅生活が困難なケースを個別ケア会議で上げてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネ支援終結率 ・ケアマネ支援データ ・アンケートの結果

(I) 地域ケア会議推進事業

【根拠法令】介護保険法第115条の48

【目的】地域包括ケアシステムの構築のため、地域ケア会議を開催し、介護サービスだけでなく、様々な社会資源が有機的に連携することができる環境を整備し、高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を営むことができるよう支援を行う。

事業内容	令和2年度 活動評価									
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価								
個別ケースの検討を行う地域ケア会議	○個別ケースの検討を行う地域ケア会議（R2.12現在）	<p>【活動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーが地域とつながる必要性を理解し、連携して支援することができる。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケース選定は全ケースにおいて、センターから居宅介護支援事業所の担当ケアマネジャーに声をかけ会議を開催していることから、まだケアマネジャーが地域とつながる意識が薄いこと、地域ケア会議についての理解が十分でないと評価する。今後はケアマネジャーや地域の支援者から積極的に、個別ケア会議の開催依頼がくるようになることで、更に早期に必要な支援につながると考えられる。 ・ケアマネジャーは利用者中心の視点であることが多く、家族や世帯全体を捉える視点を強化する必要があるため、事例検討会を企画する。（圏域ケアマネジメント研修） ・ケアマネジャーが地域とつながる必要性を理解するため、事前に参集者など打ち合わせを行い意識強化を図った。 ・開催後のモニタリングも含めての次回開催日程を決め、途切れず地域と連携していく意識強化を図った。 <p>【活動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症を理解し、地域で見守る協力者が増える。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別ケア会議の開催に至ったケースの背景としては、認知症が一番多かった。会議の中で「認知症」についての講義や「認知症ケアパス」の配布をし、参加者全員が認知症を理解したうえで話し合いができるよう工夫した。 ・総合相談では、認知症の症状が進んでから相談につながるケースが多くなっており、早期に相談につながるよう広報啓発を継続していく。 								
	・実施状況									
	(件)									
	<table border="1"> <tr> <td>実施回数</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>ケアマネジャーから依頼のあったケース</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>地域とネットワーク構築できたケース</td> <td>4</td> </tr> </table>		実施回数	4	ケアマネジャーから依頼のあったケース	0	地域とネットワーク構築できたケース	4		
	実施回数		4							
	ケアマネジャーから依頼のあったケース		0							
	地域とネットワーク構築できたケース		4							
	・開催に至ったケースの背景 ※重複あり									
	(件)									
	<table border="1"> <tr> <td>認知症</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>難病</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>独居、高齢者世帯</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>不衛生、多頭飼い</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>家族が認知症もしくは精神疾患</td> <td>1</td> </tr> </table>		認知症	4	難病	1	独居、高齢者世帯	6	不衛生、多頭飼い	1
認知症	4									
難病	1									
独居、高齢者世帯	6									
不衛生、多頭飼い	1									
家族が認知症もしくは精神疾患	1									
・参集者 ※重複あり、開催予定ケースも含む										
<table border="1"> <tr> <td>本人、民生委員、近隣住民、行政（生活支援課）、中央警察署生活安全課、医療機関、ケアマネジャー、介護サービス事業所</td> </tr> </table>	本人、民生委員、近隣住民、行政（生活支援課）、中央警察署生活安全課、医療機関、ケアマネジャー、介護サービス事業所									
本人、民生委員、近隣住民、行政（生活支援課）、中央警察署生活安全課、医療機関、ケアマネジャー、介護サービス事業所										
・地域の声										
地域住民：もう少し早くサービスを利用していれば、大変な状態にはならなかった。										
民生委員：高齢ではなかったので訪問しておらず、知らなかった。 ケアマネジャーが関わっていると知っていたら、余計な心配はしなかった。										
・地域の課題										
①平成30年度から令和2年度の間で、鍛冶団地在住ケースの個別ケースの検討を行う地域ケア会議（以下「個別ケア会議」という。）は13件中4件で、支援困難になってからの相談が多く、団地住民へのセンターの周知と見守り体制構築が今後の課題										
②近隣住民は、認知症に対してある程度の知識は持っているが、身近なものとして捉えていない傾向がある。今後、地域住民に対する認知症の周知のあり方や、正しい認知症の知識の普及啓発が課題										

令和3年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
<p>・個別ケースの支援をきっかけに、ケアマネジャーと地域の支援者とのネットワークが継続できる。</p>	<p>1 個別ケア会議のケースを効果的に把握する</p> <p>①圏域の居宅介護支援事業所との懇談会等で、対象ケースがないか情報収集する。対象になるケースがあれば会議の開催を打診する。</p> <p>②会議の目的や地域の担い手とつながることの必要性を理解しやすいように、懇談会等で好事例を紹介する。</p> <p>2 個別ケア会議を効果的に開催する</p> <p>①担当ケアマネジャーと参集者の事前協議（参集者の検討等）をすることで、地域のネットワークづくりの手法を一緒に考える。</p> <p>②会議の中で認知症の初期症状や対応等について説明し、地域で支援する理解者を増やす。</p> <p>③参集者にセンターが独自で作成した連絡票を配布し、緊急時の連絡方法等を整理する。</p> <p>④モニタリングの実施時期やフィードバックの方法を会議の場で明確にし、参集者と共有する。</p> <p>⑤会議終了後に、会議の効果について参集者へインタビューを実施し評価する。</p>	<p>・打診の回数</p> <p>・打診し実際に開催した回数</p> <p>・ケアマネジャーから自主的に会議開催依頼があった回数</p>

(I) 地域ケア会議推進事業

事業内容	令和2年度 活動評価	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価
個別ケースの検討を行う地域ケア会議	<ul style="list-style-type: none"> ・会議参加者の声 会議に参加して、ケアマネジャーが関わっていることがわかって安心した。 今まで、何かあったらと心配だったけど、これからは相談する人ができたので気が軽くなった。 ・ご本人同意のもと連絡票を配布 ご本人の基本情報 緊急連絡先 主治医 関係者の連絡先一覧 ご家族のサービス利用状況など 	<p>【活動目標】 複合的課題をもった世帯に関わる支援者同士、お互いの立場や役割を理解し連携して支援することができる。</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は会議で複合的な課題をもったケースをとりあげなかったが、参加した近隣住民が「会議に参加してよかった」「安心した」との声があり、地域とセンターやケアマネジャー、介護保険事業所などの連携の必要性、住民同士が見守り協力していくことの重要性の理解が深まったと評価する。 ・医療機関は、業務上参加の時間調整が困難な場合が多く、事前に医療相談室などに情報収集を行うなど工夫することで、医療側の見解を共有することができた。 ・参加できなかった参集者には、検討内容の結果や連絡票を配布することで、効果的に役割分担をし連携することができた。

令和3年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標

(I) 地域ケア会議推進事業

事業内容	令和2年度 活動評価	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価
地域課題の検討を行う地域ケア会議	○地域課題の検討を行う地域ケア会議 ・開催状況	
	日程	令和2年12月15日（延期） 令和3年3月18日（予定）
	場所	亀田交流プラザ
	地域課題	地域とつながる意識をもつことで、高齢者の困りごとやSOSを拾える人が増える
	目的	コロナ禍における地域活動の現状や地域課題を共有し、課題を解決するための新しい仕組みづくりを検討する
	参加者	民生委員、富岡町一丁目町会、東富岡町会、中道一丁目町会、中道第二町会、鍛冶町会、ケアプランセンター富岡、ケアプランセンターたんぼぼ、介護の相談丸山事務所、介護相談センター西堀、アサヒ薬局、函館大谷短期大学、函館大谷高等学校
	<p>【活動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域にある問題を地域住民と共有し、地域課題を抽出することができる。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における地域活動の現状や問題を共有し、地域課題を抽出する予定だったが、会場の亀田交流プラザで新型コロナウイルスの感染者が確認され、臨時休館となったため会議を延期し達成できなかった。（令和3年3月実施予定） ・民生児童委員協議会や町会を訪問し、コロナ禍での活動状況について聞き取りした結果、既存の活動がままならない現状が明らかとなった。 ・会議に代わる取り組みとして、地域住民に向けては、センター広報紙に見守りの記事を掲載し周知したほか、民生児童委員協議会や町会、在宅福祉委員に向けては、定例会に参加し保健師看護師部会で作成したリーフレットを配布することで、見守りの大切さを改めて周知する予定。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、地域における見守り活動がままならず、支援を必要とする高齢者の発見が遅れることが危惧される。既存の活動に捉われないコロナ禍での新たな見守り活動や、地域の担い手と関係機関との情報共有、ネットワーク構築について検討していく必要がある。 <p>【活動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民主体の見守り活動に取り組めるよう、仕組みをつくる。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における地域活動の現状や地域課題を共有し、課題を解決するための新しい仕組みづくりを検討する予定だったが、会場の亀田交流プラザで新型コロナウイルスへの感染者が確認され、臨時休館となったため会議を延期せざるを得ず、仕組みをつくるまでには至らなかった。令和3年度も継続して検討していく。 	

令和3年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標																								
<p>・住民主体で見守り活動に取り組めるように仕組みをつくる。</p>	<p>1 地域課題の検討を行う地域ケア会議の開催</p> <p>①鍛冶団地</p> <table border="1" data-bbox="470 414 1109 952"> <tr> <td>問題</td> <td>高齢、経済困窮、精神疾患等の重複課題を抱えた住民が多い。支援が必要な高齢者に気づいてもどう対処してよいのか住民がわからず不安がある。</td> </tr> <tr> <td>課題</td> <td>住民同士の声掛けや見守りができることで、早期に支援が必要な高齢者に住民が気付くことができ、必要な支援につなぐことができる。</td> </tr> <tr> <td>参集者</td> <td>地域住民、民生委員など</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>①鍛冶団地内の問題や課題を共有する ②団地内での見守り活動のネットワーク化</td> </tr> <tr> <td>日程</td> <td>6月</td> </tr> <tr> <td>場所</td> <td>町会館</td> </tr> </table> <p>②地域とケアマネジャーの連携</p> <table border="1" data-bbox="470 1086 1109 1624"> <tr> <td>問題</td> <td>支援者同士のつながりがない、または希薄なことで高齢者に対する効果的な支援ができていない。支援者の負担が大きい。</td> </tr> <tr> <td>課題</td> <td>地域の支援者とケアマネジャー等の専門職がつながる仕組みができることで、効果的にチームで支援することができるようになる。</td> </tr> <tr> <td>参集者</td> <td>民生委員、町会関係者、在宅福祉委員、ケアマネジャー</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>①情報共有が必要な高齢者の範囲や方法について検討する</td> </tr> <tr> <td>日程</td> <td>7月</td> </tr> <tr> <td>場所</td> <td>亀田交流プラザ</td> </tr> </table>	問題	高齢、経済困窮、精神疾患等の重複課題を抱えた住民が多い。支援が必要な高齢者に気づいてもどう対処してよいのか住民がわからず不安がある。	課題	住民同士の声掛けや見守りができることで、早期に支援が必要な高齢者に住民が気付くことができ、必要な支援につなぐことができる。	参集者	地域住民、民生委員など	内容	①鍛冶団地内の問題や課題を共有する ②団地内での見守り活動のネットワーク化	日程	6月	場所	町会館	問題	支援者同士のつながりがない、または希薄なことで高齢者に対する効果的な支援ができていない。支援者の負担が大きい。	課題	地域の支援者とケアマネジャー等の専門職がつながる仕組みができることで、効果的にチームで支援することができるようになる。	参集者	民生委員、町会関係者、在宅福祉委員、ケアマネジャー	内容	①情報共有が必要な高齢者の範囲や方法について検討する	日程	7月	場所	亀田交流プラザ	<p>・仕組みづくりに向けて検討した回数</p> <p>・新たに出来た仕組みの数</p>
問題	高齢、経済困窮、精神疾患等の重複課題を抱えた住民が多い。支援が必要な高齢者に気づいてもどう対処してよいのか住民がわからず不安がある。																									
課題	住民同士の声掛けや見守りができることで、早期に支援が必要な高齢者に住民が気付くことができ、必要な支援につなぐことができる。																									
参集者	地域住民、民生委員など																									
内容	①鍛冶団地内の問題や課題を共有する ②団地内での見守り活動のネットワーク化																									
日程	6月																									
場所	町会館																									
問題	支援者同士のつながりがない、または希薄なことで高齢者に対する効果的な支援ができていない。支援者の負担が大きい。																									
課題	地域の支援者とケアマネジャー等の専門職がつながる仕組みができることで、効果的にチームで支援することができるようになる。																									
参集者	民生委員、町会関係者、在宅福祉委員、ケアマネジャー																									
内容	①情報共有が必要な高齢者の範囲や方法について検討する																									
日程	7月																									
場所	亀田交流プラザ																									

イ 生活支援体制整備事業

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

【根拠法令】介護保険法第115条の45第2項第5号

【目的】地域における住民主体の助け合い活動を促進する仕組みおよび高齢者の社会参加を促進する仕組みの創出ならびに充実を行う。

事業内容	令和2年度 活動評価																													
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																												
第2層生活支援 コーディネーター 活動	<p>○新たに構築したネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央警察署生活安全課 ・北海道警察函館方面本部 ・七飯町社会福祉協議会 ・長万部町役場 ・函館大谷高等学校 (法華寺、和合寺、観音寺→令和3年度に延期) <p>○ネットワーク構築回数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種 別</th> <th colspan="2">回数</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>懇談会（開催，参加）</td> <td>9</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>民生児童委員協議会定例会</td> <td>5</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>町会行事</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>在宅福祉ふれあい事業</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>地域密着運営推進会議</td> <td>31</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>(件)</p>	種 別	回数		R1	R2	懇談会（開催，参加）	9	0	民生児童委員協議会定例会	5	3	町会行事	5	4	在宅福祉ふれあい事業	1	0	地域密着運営推進会議	31	4	その他	4	6	<p>【活動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな担い手と既存の組織や社会資源とをマッチングする。 <p>【評 価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェや新規健康教室等の開催も新型コロナウイルスの影響で中止となり、新たな担い手とのマッチングに至らなかったが、各種事業を通して新たに様々な機関とネットワークを構築することができた。 ・新たに構築した大谷短期大学及び大谷高校の方とのネットワークをいかせるように、令和3年度はコロナ禍でも第2層協議体を開催できるよう工夫する必要がある。 <p>【活動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域にある住民主体の活動の場を把握し、高齢者が活動に参加できる。 <p>【評 価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約39か所のサークルの活動内容や希望者への情報提供方法を把握できたが、新型コロナウイルス感染症の影響で活動を継続できたのは、既存団体のうち46%だった。半数以上が活動を自粛しており、サークル活動の場があっても地域の高齢者を参加には結びつけることはできなかった。 					
	種 別		回数																											
		R1	R2																											
	懇談会（開催，参加）	9	0																											
	民生児童委員協議会定例会	5	3																											
	町会行事	5	4																											
	在宅福祉ふれあい事業	1	0																											
	地域密着運営推進会議	31	4																											
	その他	4	6																											
	<p>○住民主体の活動の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町会館へ出向き、会館の貸館状況を調査 ・例年の活動数及び新型コロナウイルス感染症の影響による現段階の活動数を比較 ・活動に参加希望の高齢者がいた場合の窓口、連絡先 ・活動状況 <p>(か所)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>町会館</th> <th>既存サークル</th> <th>令和2年度活動数</th> <th>活動割合</th> <th>受付窓口</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中道1丁目</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>33.3%</td> <td rowspan="6">町会</td> </tr> <tr> <td>中道2丁目</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>66.7%</td> </tr> <tr> <td>鍛冶</td> <td>8</td> <td>2</td> <td>25.0%</td> </tr> <tr> <td>富岡1丁目</td> <td>12</td> <td>8</td> <td>66.7%</td> </tr> <tr> <td>東富岡</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>39</td> <td>18</td> <td>46.2%</td> </tr> </tbody> </table>	町会館	既存サークル	令和2年度活動数	活動割合	受付窓口	中道1丁目	6	2	33.3%	町会	中道2丁目	9	6	66.7%	鍛冶	8	2	25.0%	富岡1丁目	12	8	66.7%	東富岡		4	0	0%	合計	39
町会館	既存サークル	令和2年度活動数	活動割合	受付窓口																										
中道1丁目	6	2	33.3%	町会																										
中道2丁目	9	6	66.7%																											
鍛冶	8	2	25.0%																											
富岡1丁目	12	8	66.7%																											
東富岡	4	0	0%																											
合計	39	18	46.2%																											
<p>・活動内容</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>中道1丁目</td> <td>エアロビクス、HIPHOP、ストレッチ、卓球、吹奏楽、フォークダンス等</td> </tr> <tr> <td>中道2丁目</td> <td>PC教室、マジック、英会話、手芸、料理囲碁、健康体操、カラオケ、麻雀等</td> </tr> <tr> <td>富岡1丁目</td> <td>ヨガ、フィットネス、尺八、踊りの会、ストレッチ、体操、書道、パッチワーク、手芸等</td> </tr> <tr> <td>東富岡</td> <td>麻雀、パークゴルフ、健康セミナー、健康教室等</td> </tr> <tr> <td>鍛冶</td> <td>ディスコダンス、スポーツ教室、ふまねっと、カラオケ、ヨガ、学習塾等</td> </tr> </tbody> </table>	中道1丁目	エアロビクス、HIPHOP、ストレッチ、卓球、吹奏楽、フォークダンス等	中道2丁目	PC教室、マジック、英会話、手芸、料理囲碁、健康体操、カラオケ、麻雀等	富岡1丁目	ヨガ、フィットネス、尺八、踊りの会、ストレッチ、体操、書道、パッチワーク、手芸等	東富岡	麻雀、パークゴルフ、健康セミナー、健康教室等	鍛冶	ディスコダンス、スポーツ教室、ふまねっと、カラオケ、ヨガ、学習塾等																				
中道1丁目	エアロビクス、HIPHOP、ストレッチ、卓球、吹奏楽、フォークダンス等																													
中道2丁目	PC教室、マジック、英会話、手芸、料理囲碁、健康体操、カラオケ、麻雀等																													
富岡1丁目	ヨガ、フィットネス、尺八、踊りの会、ストレッチ、体操、書道、パッチワーク、手芸等																													
東富岡	麻雀、パークゴルフ、健康セミナー、健康教室等																													
鍛冶	ディスコダンス、スポーツ教室、ふまねっと、カラオケ、ヨガ、学習塾等																													

令和3年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標												
<p>・新たな地域の担い手とのネットワークを構築することができる。</p> <p>・高齢者の課題を地域住民が共有し、解決のための仕組みができる。</p>	<p>1.くらしのサポーターとの懇談会</p> <p>①圏域内在住のくらしのサポーターと懇談会を開催し、センターの役割を知ってもらうことで、連携が取りやすい関係性を構築する。</p> <p>2. コミュニティスクールとの連携</p> <p>①鍛神小学校、亀田小学校を訪問し、今後の連携について話し合うことで、ネットワークの強化を図る。</p> <p>3. 他機関とのネットワーク構築</p> <p>①寺院とのネットワーク構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域内の寺院にセンターの役割を知ってもらうことで、ネットワークが構築できる。 ②大谷高校との連携強化 ・教員や生徒にセンターの役割を知ってもらうことで、連携を図る。 ③新たな社会資源について情報収集し、センター内で共有できる仕組みをつくる。 ④新たに介護予防に関連した社会資源を発掘し、相談時に地域住民に情報提供できるように一覧表をまとめる。 <p>1. 第2層協議体の開催</p> <table border="1" data-bbox="448 1305 1088 1919"> <tr> <td data-bbox="448 1305 555 1429">問題</td> <td data-bbox="555 1305 1088 1429">高齢者に関わる機関や、学校、学生等が高齢者の支援をしたいと考えているが、ネットワークが構築されていない。課題が共有されていない。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="448 1429 555 1547">課題</td> <td data-bbox="555 1429 1088 1547">地域の関係者が地域の課題を共有し、解決するための仕組みができる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="448 1547 555 1626">参集者</td> <td data-bbox="555 1547 1088 1626">大谷高校教員、学生、薬局、地域住民等</td> </tr> <tr> <td data-bbox="448 1626 555 1765">内容</td> <td data-bbox="555 1626 1088 1765">①地域の課題を共有し、お互いに何ができるか、できないかを知る。 ②課題解決のための仕組みについて検討する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="448 1765 555 1843">日程</td> <td data-bbox="555 1765 1088 1843">未定</td> </tr> <tr> <td data-bbox="448 1843 555 1919">場所</td> <td data-bbox="555 1843 1088 1919">未定</td> </tr> </table>	問題	高齢者に関わる機関や、学校、学生等が高齢者の支援をしたいと考えているが、ネットワークが構築されていない。課題が共有されていない。	課題	地域の関係者が地域の課題を共有し、解決するための仕組みができる。	参集者	大谷高校教員、学生、薬局、地域住民等	内容	①地域の課題を共有し、お互いに何ができるか、できないかを知る。 ②課題解決のための仕組みについて検討する。	日程	未定	場所	未定	<p>・ネットワーク構築回数</p> <p>・ネットワーク構築機関</p> <p>・懇談会の実施回数、参加者数、内容</p> <p>・新たに発掘できた担い手の数</p> <p>・介護予防に関連した社会資源の把握数</p> <p>・社会資源の一覧表の作成</p> <p>・新たにできた仕組みの数</p>
問題	高齢者に関わる機関や、学校、学生等が高齢者の支援をしたいと考えているが、ネットワークが構築されていない。課題が共有されていない。													
課題	地域の関係者が地域の課題を共有し、解決するための仕組みができる。													
参集者	大谷高校教員、学生、薬局、地域住民等													
内容	①地域の課題を共有し、お互いに何ができるか、できないかを知る。 ②課題解決のための仕組みについて検討する。													
日程	未定													
場所	未定													

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

事業内容	令和2年度 活動評価																														
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																													
第2層生活支援 コーディネーター 活動	<p>○自主活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象：元氣いきいき教室（富岡） ・支援回数：1回 ・支援内容：コロナ禍での教室プログラムの変更について <p>○健康教室の新規開催の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中道一丁目町会：活動自粛中にて話し合いに至らず ・西堀病院：新型コロナウイルスの影響で会場が使用できず <p>○介護予防の普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報紙に「フレイル予防」について掲載 <p>○住民主体の健康教室についての意識調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象：元氣いきいき教室参加者、昨年度の健康教室参加者 ・回答：対象者38名中31名が回答 ・対象者年齢 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th colspan="2">R1</th> <th>R2</th> <th rowspan="2">合計</th> <th rowspan="2">割合</th> </tr> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>74歳以下</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>24</td> <td>29.2%</td> </tr> <tr> <td>75歳以上</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>15</td> <td>58</td> <td>70.7%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H29	H30	R1		R2	合計	割合	A	B	B	C	D	74歳以下	7	4	5	5	3	24	29.2%	75歳以上	10	15	10	8	15	58	70.7%	<p>【活動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民主体の自主活動が効果的に継続できる。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センターの自主活動の支援回数は1回と少なかったが、外部の講師への依頼、調整等もリーダーを中心に対応できており、今後も要望があった際の支援とモニタリングのみで継続可能と考える。 <p>【活動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民主体の活動の場が拡充することで地域住民の主体的な活動意欲が高まる。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規の健康教室開催を計画していたが、2会場ともに新型コロナウイルスの影響で開催できず拡充には至らなかった。そのため、住民一人一人が自宅でもできるフレイル予防についてセンターの広報紙に掲載し、周知を図ることができた。 ・アンケート結果から、コロナ禍でも介護予防の活動は必要と考えているものの、年齢的にリーダーを担うことには不安が大きいと感じていることが分かった。 ・リーダーをやってもいいと回答した2名は74歳以下であったことから、リーダーの育成は74歳以下にターゲットを絞ることも効果的であると推測されたため、今後の担い手発掘の材料のひとつとする。同時に、74歳以下の方が地域の健康教室には参加しない理由があったり、他の活動をしている可能性もあると考えられるため、令和3年度は地域住民のセルフケアについての意識調査をする。 ・コロナ禍で大勢が集合しにくい環境であること、リーダーを担う人がいないことから、これまでの健康教室の手法にとどまらず、来年度は地域の実情にあった開催方法の検討が必要である。
	年度		H29	H30	R1		R2			合計	割合																				
		A	B	B	C	D																									
	74歳以下	7	4	5	5	3	24	29.2%																							
	75歳以上	10	15	10	8	15	58	70.7%																							
	1. 住民主体の教室のリーダーをやってもよいか	<p style="text-align: right;">(人)</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①やってもいい</td> <td>1</td> <td>3.0%</td> </tr> <tr> <td>②やりたくない、できない</td> <td>29</td> <td>94.0%</td> </tr> <tr> <td>③他に誰もいなければやってもいい</td> <td>1</td> <td>3.0%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	人数	割合	①やってもいい	1	3.0%	②やりたくない、できない	29	94.0%	③他に誰もいなければやってもいい	1	3.0%																	
	回答	人数	割合																												
	①やってもいい	1	3.0%																												
	②やりたくない、できない	29	94.0%																												
	③他に誰もいなければやってもいい	1	3.0%																												
2. やりたくない、できない理由	<p style="text-align: right;">(人)</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①何をしたらいいのかわからない</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>②他業務が忙しく時間がない</td> <td>4</td> <td>12.9%</td> </tr> <tr> <td>③大変そうなイメージがある</td> <td>2</td> <td>6.5%</td> </tr> <tr> <td>④責任が重い</td> <td>2</td> <td>6.5%</td> </tr> <tr> <td>⑤企画、調整等が億劫</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>⑥年齢的に厳しい</td> <td>23</td> <td>74.2%</td> </tr> <tr> <td>⑦頭がついていかない</td> <td>4</td> <td>12.9%</td> </tr> <tr> <td>⑧体力的に厳しい</td> <td>4</td> <td>12.9%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	人数	割合	①何をしたらいいのかわからない	0	0%	②他業務が忙しく時間がない	4	12.9%	③大変そうなイメージがある	2	6.5%	④責任が重い	2	6.5%	⑤企画、調整等が億劫	0	0%	⑥年齢的に厳しい	23	74.2%	⑦頭がついていかない	4	12.9%	⑧体力的に厳しい	4	12.9%			
回答	人数	割合																													
①何をしたらいいのかわからない	0	0%																													
②他業務が忙しく時間がない	4	12.9%																													
③大変そうなイメージがある	2	6.5%																													
④責任が重い	2	6.5%																													
⑤企画、調整等が億劫	0	0%																													
⑥年齢的に厳しい	23	74.2%																													
⑦頭がついていかない	4	12.9%																													
⑧体力的に厳しい	4	12.9%																													
3. 健康教室開催についてどう思うか	<p style="text-align: right;">(人)</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tbody> <tr> <td>①必要</td> <td>24名</td> </tr> <tr> <td>②不要</td> <td>0名</td> </tr> <tr> <td>③コロナ禍でなければ必要</td> <td>7名</td> </tr> </tbody> </table>	①必要	24名	②不要	0名	③コロナ禍でなければ必要	7名																								
①必要	24名																														
②不要	0名																														
③コロナ禍でなければ必要	7名																														
4. 健康教室を開催した場合、参加するか	<p style="text-align: right;">(人)</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tbody> <tr> <td>①参加したい</td> <td>15名</td> </tr> <tr> <td>②参加したくない</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>③コロナ禍でなければ参加したい</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>④情報だけ希望</td> <td>0名</td> </tr> <tr> <td>⑤開催方法によって参加を検討する</td> <td>10名</td> </tr> </tbody> </table>	①参加したい	15名	②参加したくない	3名	③コロナ禍でなければ参加したい	3名	④情報だけ希望	0名	⑤開催方法によって参加を検討する	10名																				
①参加したい	15名																														
②参加したくない	3名																														
③コロナ禍でなければ参加したい	3名																														
④情報だけ希望	0名																														
⑤開催方法によって参加を検討する	10名																														

令和3年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標												
<p>・コロナ禍でも既存の住民主体の介護予防活動を続けることができる。</p> <p>・地域の高齢者のニーズに合った、コロナ禍でもできる介護予防活動について住民とともに検討する</p>	<p>1. 富岡町一丁目町会自主活動の継続支援</p> <p>①コロナ禍での運営方法や実施内容について助言等を行い、リーダーを中心に活動を継続できるように支援する。</p> <p>②感染予防について情報提供をすることで、活動継続に対しての不安を軽減する。</p> <p>③出前講座を実施し、フレイル予防やセルフケアの必要性を周知する。</p> <p>1. 地域の高齢者のセルフケアについての調査</p> <p>①対象：自主活動グループ（富岡町一丁目） 見守りネットワーク対象者</p> <p>②時期：令和3年7月～12月</p> <p>③方法：アンケート調査</p> <p>④評価：アンケート集計を分析し、センター内で共有。地域課題を抽出する。 ニーズを把握し、介護予防活動の効果的な方法の検討に役立てる。</p> <p>2. 第2層協議体の開催</p> <table border="1" data-bbox="459 1048 1098 1648"> <tr> <td data-bbox="459 1048 564 1211">問題</td> <td data-bbox="564 1048 1098 1211">コロナ禍で活動が少なくなり、フレイル状態の高齢者が増えることが予測される。介護予防活動の必要性は感じているがリーダーを担う人がいなく、住民主体の介護予防活動が拡充しない</td> </tr> <tr> <td data-bbox="459 1211 564 1330">課題</td> <td data-bbox="564 1211 1098 1330">コロナ禍でも地域の高齢者のニーズに合った介護予防活動が発展する</td> </tr> <tr> <td data-bbox="459 1330 564 1406">参集者</td> <td data-bbox="564 1330 1098 1406">これまでの健康教室参加者、くらしのサポーター等</td> </tr> <tr> <td data-bbox="459 1406 564 1487">内容</td> <td data-bbox="564 1406 1098 1487">①地域のニーズ、課題を共有する ②コロナ禍でもできる介護予防活動について</td> </tr> <tr> <td data-bbox="459 1487 564 1568">日程</td> <td data-bbox="564 1487 1098 1568">5月、未定（計2回）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="459 1568 564 1648">場所</td> <td data-bbox="564 1568 1098 1648">亀田交流プラザ</td> </tr> </table>	問題	コロナ禍で活動が少なくなり、フレイル状態の高齢者が増えることが予測される。介護予防活動の必要性は感じているがリーダーを担う人がいなく、住民主体の介護予防活動が拡充しない	課題	コロナ禍でも地域の高齢者のニーズに合った介護予防活動が発展する	参集者	これまでの健康教室参加者、くらしのサポーター等	内容	①地域のニーズ、課題を共有する ②コロナ禍でもできる介護予防活動について	日程	5月、未定（計2回）	場所	亀田交流プラザ	<p>・自主活動支援回数</p> <p>・自主活動活動内容</p> <p>・介護予防アンケート</p> <p>・介護予防に関する新規の相談件数</p>
問題	コロナ禍で活動が少なくなり、フレイル状態の高齢者が増えることが予測される。介護予防活動の必要性は感じているがリーダーを担う人がいなく、住民主体の介護予防活動が拡充しない													
課題	コロナ禍でも地域の高齢者のニーズに合った介護予防活動が発展する													
参集者	これまでの健康教室参加者、くらしのサポーター等													
内容	①地域のニーズ、課題を共有する ②コロナ禍でもできる介護予防活動について													
日程	5月、未定（計2回）													
場所	亀田交流プラザ													

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

事業内容	令和2年度 活動評価	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価
第2層生活支援 コーディネーター 活動	5. コロナ禍に参加する場合、希望すること	
	(人)	
	①換気や消毒等の十分な感染対策	24名
	②少人数	3名
	③屋外	6名
	④ライブ配信	0名
	⑤資料配布のみ	0名
	⑥通える距離であること	3名

令和3年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標

ウ 認知症総合支援事業

令和2年度 認知症支援推進員 活動報告書（認知症の取組）

地域包括支援センター名： 西堀

【函館市地域包括支援センター運営事業業務処理要領抜粋】

オ 認知症総合支援事業

(イ) 認知症地域支援・ケア向上推進事業

- a 認知症の人に、状態に応じた適切なサービスが提供されるよう、認知症疾患医療センターを含む医療機関や介護サービス事業者、認知症サポーター等地域において認知症の人を支援する関係者の連携を図るための取組
- b 認知症の人とその家族を支援する相談支援や、支援体制を構築するための取組
- c 認知症カフェや介護教室等、認知症の人の家族に対する支援事業の実施
- d 認知症ケアに携わる多職種協働のための研修事業の実施

【令和2年度の取組】

- 1 認知症カフェの開催(c)
新型コロナウイルス感染症影響により開催予定だった西堀病院では外部の人間の出入りが困難となり未開催
- 2 認知症初期集中支援チームとの連携(a)
令和2年7月29日 認知症初期集中支援チーム事業報告会
- 3 認知症ケアパス配布に関して(b)
新たな配布先なし。個別支援等の際に関係者に配布している。
- 4 認知症地域支援推進員連絡会参加(a) 令和2年6月11日
令和2年10月15日 令和3年1月21日 両日1名参加
- 5 認知症地域支援推進員研修及び認知症に関する研修への参加(その他)
認知症地域支援推進員新任者研修に参加予定だったが、研修自体新型コロナウイルス感染症の影響で開催自粛
- 6 認知症サポーター養成講座の開催(a)
令和2年8月25日 暮らしのサポーター養成講座
※例年開催を検討していた学校においてはコロナ禍感染予防の面で開催自粛
- 7 認知症サポーター養成講座の開催や認知症カフェの開催を含めた新たなネットワークの構築(c)
→函館大谷高等学校（観音寺、和合寺、法華寺はコロナ禍の状況に応じて面談日程調整中）
- 8 多職種研修会「函館市認知症カフェ企画運営研修会」打ち合わせ(d)
令和2年8月24日 令和2年9月11日 両日1名参加

【令和3年度の取組予定】

- 1 認知症カフェの開催：ネットワークを構築することからはじめ、開催場所の再検討が必要(c)
- 2 認知症地域支援推進員連絡会、認知症初期集中支援チームチーム員会議
認知症ケアパスの活用及び普及啓発 (b)
- 3 認知症地域支援推進員 現任者研修への参加(a)
- 4 認知症サポーター養成講座の打診(鍛神小学校、亀田小学校、大谷短期大学、大谷高等学校)(a)
- 5 圏域内認知症カフェ開催におけるネットワーク構築(c)
- 6 他職種研修会検討グループへの参加(d)
- 7 世界アルツハイマーデーのイベント開催支援(b)

エ 地域住民等に対する広報・啓発活動

事業内容	令和2年度 活動評価																																	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																																
広報啓発活動	○主たる広報・啓発回数 (回)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2.12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広報紙の発行</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>リーフレット等の配布</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>出前講座・講師派遣</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>認知症サポーター養成講座</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>		H30	R1	R2.12	広報紙の発行	3	3	2	リーフレット等の配布	16	16	8	出前講座・講師派遣	6	2	3	認知症サポーター養成講座	1	2	1												
		H30	R1	R2.12																														
	広報紙の発行	3	3	2																														
	リーフレット等の配布	16	16	8																														
	出前講座・講師派遣	6	2	3																														
	認知症サポーター養成講座	1	2	1																														
	○広報紙の発行 ・発行部数 (部)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>配付部数</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2.12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏号</td> <td>1,916</td> <td>1,893</td> <td>2,338</td> </tr> <tr> <td>秋号</td> <td>1,924</td> <td>1,933</td> <td>2,333</td> </tr> <tr> <td>春号</td> <td>1,862</td> <td>2,198</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5,702</td> <td>6,024</td> <td>4,671</td> </tr> </tbody> </table>	配付部数	H30	R1	R2.12	夏号	1,916	1,893	2,338	秋号	1,924	1,933	2,333	春号	1,862	2,198	-	計	5,702	6,024	4,671	<p>【活動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が安心して生活できる地域づくりに必要な情報として、認知症理解のための情報提供、センターの役割の周知、地域の見守りネットワーク構築の必要性、様々な専門職種やサービスについて、広報紙や出前講座を通じて地域住民へ広報・啓発する。 ・圏域の高齢者の諸問題を「早い段階で誰かに伝え、早期に対応ができる」地域で支え合う体制づくりを広く周知する。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報紙の配布は年3回実施。新規配布先を拡大したことで、センターの存在を認識する機会となり、必要時センターにつなぐ環境を整えることができた。 ・広報紙の配布時、既存の配布先にアンケートを実施し、広報紙の残数や住民の閲覧状況の確認を行ったところ、病院では広報紙を見ている様子はあるが、持ち帰っていない現状があると把握することができた。配布先の残数だけでは、センターの認知度は判断できないため、総合相談によるセンターの把握経路についてデータの積み上げが必要である。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、町会役員会の開催時間短縮のため、リーフレット等の配布機会が減少。出前講座・講師派遣も新型コロナウイルス感染症の影響から依頼が少なく、センターからも積極的に講座の開催は企画できなかった。認知症サポーター養成講座も、圏域内の小学校での開催を協議するも新型コロナウイルス流行の影響から開催には至らず、今後も新型コロナウイルス流行の影響を考慮しながら、継続して開催を検討するとともに、代替えとなる事業を模索することが必要となる。 											
	配付部数	H30	R1	R2.12																														
	夏号	1,916	1,893	2,338																														
	秋号	1,924	1,933	2,333																														
春号	1,862	2,198	-																															
計	5,702	6,024	4,671																															
・配布機関数 (か所)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>配布先・機関</th> <th>第13号</th> <th>第14号</th> <th>第15号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>町会・民児協</td> <td>8</td> <td>8</td> <td rowspan="10">R3年3月 発行予定</td> </tr> <tr> <td>銀行・郵便局・交番</td> <td>12(4)</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>病・医院</td> <td>22(2)</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>薬局</td> <td>11(1)</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>介護事業者</td> <td>11(1)</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>学校</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>公共機関</td> <td>11(1)</td> <td>12(1)</td> </tr> <tr> <td>スーパー・コンビニ</td> <td>5(1)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	配布先・機関	第13号	第14号	第15号	町会・民児協	8	8	R3年3月 発行予定	銀行・郵便局・交番	12(4)	12	病・医院	22(2)	22	薬局	11(1)	11	介護事業者	11(1)	11	学校		2	2	公共機関	11(1)	12(1)	スーパー・コンビニ	5(1)	5	その他	4	4
配布先・機関	第13号	第14号	第15号																															
町会・民児協	8	8	R3年3月 発行予定																															
銀行・郵便局・交番	12(4)	12																																
病・医院	22(2)	22																																
薬局	11(1)	11																																
介護事業者	11(1)	11																																
学校	2	2																																
公共機関	11(1)	12(1)																																
スーパー・コンビニ	5(1)	5																																
その他	4	4																																
※ () 内数字は新規配布先数																																		
・掲載内容	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>第13号</td> <td>「センターについて」職員紹介 「介護予防」ステイホームでフレイル増加 「その他」感染予防は手洗いから</td> </tr> <tr> <td>第14号</td> <td>「高齢者虐待」高齢者虐待防止推進月間 「地域の見守り」地域社会への関わり 「その他」11月30日は人生会議の日です 「その他」シニアドライバーの安全運転 「その他」正しいマスクのつけ方</td> </tr> </tbody> </table>	第13号	「センターについて」職員紹介 「介護予防」ステイホームでフレイル増加 「その他」感染予防は手洗いから	第14号	「高齢者虐待」高齢者虐待防止推進月間 「地域の見守り」地域社会への関わり 「その他」11月30日は人生会議の日です 「その他」シニアドライバーの安全運転 「その他」正しいマスクのつけ方																													
第13号	「センターについて」職員紹介 「介護予防」ステイホームでフレイル増加 「その他」感染予防は手洗いから																																	
第14号	「高齢者虐待」高齢者虐待防止推進月間 「地域の見守り」地域社会への関わり 「その他」11月30日は人生会議の日です 「その他」シニアドライバーの安全運転 「その他」正しいマスクのつけ方																																	
○リーフレット等の配布 (部)	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>6月</td> <td>地域住民</td> <td>17</td> <td>虐待、消費者被害</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">7月</td> <td>民生委員</td> <td>24</td> <td>介護予防 地域での見守り活動</td> </tr> <tr> <td>民生委員</td> <td>26</td> <td>介護予防、熱中症</td> </tr> <tr> <td>町会役員</td> <td>25</td> <td>介護予防 住民主体の助け合い 熱中症、くらすボ</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">11月</td> <td>地域住民</td> <td>40</td> <td>虐待、消費者被害 介護予防、熱中症 地域での見守り活動</td> </tr> <tr> <td>町会役員</td> <td>23</td> <td>消費者被害</td> </tr> <tr> <td>町会役員</td> <td>26</td> <td>高齢者の交通安全</td> </tr> </tbody> </table>	6月	地域住民	17	虐待、消費者被害	7月	民生委員	24	介護予防 地域での見守り活動	民生委員	26	介護予防、熱中症	町会役員	25	介護予防 住民主体の助け合い 熱中症、くらすボ	11月	地域住民	40	虐待、消費者被害 介護予防、熱中症 地域での見守り活動	町会役員	23	消費者被害	町会役員	26	高齢者の交通安全									
6月	地域住民	17	虐待、消費者被害																															
7月	民生委員	24	介護予防 地域での見守り活動																															
	民生委員	26	介護予防、熱中症																															
	町会役員	25	介護予防 住民主体の助け合い 熱中症、くらすボ																															
11月	地域住民	40	虐待、消費者被害 介護予防、熱中症 地域での見守り活動																															
	町会役員	23	消費者被害																															
	町会役員	26	高齢者の交通安全																															

令和3年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
<p>・センターの広報啓発活動をきっかけに、新規相談件数が増える。</p>	<p>1. 広報紙の発行 配布時期：年2回（7月、2月） 内容：権利擁護、認知症、フレイル、高齢福祉サービス等 配布先・閲覧方法：既存の配布先、新規設置・配布先。ホームページへの掲載の継続。 調査方法：①相談者がセンターを知るきっかけが広報紙の件数を1年間で集計する。遠方に住む家族についてはホームページの閲覧状況を聞き取りする。 ②既存の配布先や新規の配布先の残部数を集計。住民が実際に手にとっているか確認する。 ③実態把握での訪問時にセンターや広報紙の認知度について聞き取りする。</p> <p>2. リーフレットの配布 配布時期：随時 内容：認知症ケアパス、権利擁護、見守り、フレイル等 配布先：見守りネットワーク訪問時、民生児童委員協議会定例会、町会定例会、出前講座等、直営の利用者 調査方法：①リーフレットの活用状況について聞き取りを行う。 ②見守りネットワーク事業の訪問時に配布したリーフレットの内容について見聞きしたことがあるか聞き取りする。 ③直営の利用者を対象に保健師部会で作成した見守りのリーフレットを配布し、利用者本人も地域の担い手である意識を持ってもらえるよう取り組む。</p> <p>3. 出前講座の実施 開催時期：随時 講座内容：権利擁護、認知症等 調査方法：参加者へその場で広報紙をみたことがあるか等聞き取りを行う。</p>	<p>・センターの認知度 ・広報紙の認知度 ・広報紙の配布数、広報紙の残部数 ・広報紙の掲載内容 ・各種リーフレットの配布数 ・出前講座実施回数 ・相談者がセンターを知るきっかけとなった紹介元 ・新規相談件数</p>

エ 地域住民等に対する広報・啓発活動

事業内容	令和2年度 活動評価																						
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																					
広報啓発活動	<p>○出前講座、講師派遣</p> <p style="text-align: right;">(人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>対象者</th> <th>人数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月</td> <td>地域住民</td> <td>17</td> <td>講話、体操 センターについて 介護予防 地域での見守り活動 住民同士の助け合い</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>地域住民</td> <td>16</td> <td>講話、体操 介護予防、感染予防</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>町会役員</td> <td>35</td> <td>講話 センターについて 地域での見守り活動 住民同士の助け合い</td> </tr> </tbody> </table> <p>・依頼機関 「富岡町一丁目町会」「東富岡町会」</p>	実施月	対象者	人数	内容	6月	地域住民	17	講話、体操 センターについて 介護予防 地域での見守り活動 住民同士の助け合い	7月	地域住民	16	講話、体操 介護予防、感染予防	9月	町会役員	35	講話 センターについて 地域での見守り活動 住民同士の助け合い	<p>・ 広報紙への記事掲載、リーフレット等配布内容（実績参照）は、配布時期や地域のニーズなどを考慮して、まずは地域住民に手に取って見ていただけるように記事の構成や掲載内容を工夫している。</p> <p>・ 出前講座、講師派遣内容については、権利擁護や高齢者虐待、地域の見守り活動などの依頼が地域からはなかったため、今後はセンターから積極的に地域へ発信し、周知する場面を増やし、住民の意識醸成を目指す。</p> <p>・ 相談の初期段階で地域住民や専門機関等がセンターへどのような経緯で相談されているか、年度途中からセンターを知った理由や相談者を集計、調査している。地域ケア会議や第2層協議体を活用し、地域のネットワーク構築を意識した広報・啓発活動が必要である。</p>					
	実施月	対象者	人数	内容																			
	6月	地域住民	17	講話、体操 センターについて 介護予防 地域での見守り活動 住民同士の助け合い																			
	7月	地域住民	16	講話、体操 介護予防、感染予防																			
	9月	町会役員	35	講話 センターについて 地域での見守り活動 住民同士の助け合い																			
	<p>○認知症サポーター養成講座</p> <p style="text-align: right;">(人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>対象者</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8月</td> <td>くらしのサポーター</td> <td>34</td> </tr> </tbody> </table> <p>・依頼機関 「函館市社会福祉協議会」</p>	実施月	対象者	人数	8月	くらしのサポーター	34																
	実施月	対象者	人数																				
	8月	くらしのサポーター	34																				
	<p>○事業内容に係る広報・啓発回数</p> <p>・ 総合相談</p> <p style="text-align: right;">(回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2.12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>センター業務</td> <td>12</td> <td>10</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>介護保険制度</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>保健福祉サービス</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>認知症（認サポ含）</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>		H30	R1	R2.12	センター業務	12	10	3	介護保険制度	11	6	0	保健福祉サービス	4	1	0		認知症（認サポ含）	10	10	1	
		H30	R1	R2.12																			
センター業務	12	10	3																				
介護保険制度	11	6	0																				
保健福祉サービス	4	1	0																				
認知症（認サポ含）	10	10	1																				
<p>・ 権利擁護</p> <p style="text-align: right;">(回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2.12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高齢者虐待</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>成年後見</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>消費者被害</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>		H30	R1	R2.12	高齢者虐待	9	8	3	成年後見	2	1	0	消費者被害	3	2	5							
	H30	R1	R2.12																				
高齢者虐待	9	8	3																				
成年後見	2	1	0																				
消費者被害	3	2	5																				
<p>・ 地域ケア会議</p> <p style="text-align: right;">(回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2.12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域ケア会議</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>地域の見守り</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>		H30	R1	R2.12	地域ケア会議	4	3	0	地域の見守り	6	6	5											
	H30	R1	R2.12																				
地域ケア会議	4	3	0																				
地域の見守り	6	6	5																				
<p>・ 介護予防</p> <p style="text-align: right;">(回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2.12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護予防</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>		H30	R1	R2.12	介護予防	5	6	7															
	H30	R1	R2.12																				
介護予防	5	6	7																				
<p>・ 住宅改修</p> <p style="text-align: right;">(回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2.12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>住宅改修</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		H30	R1	R2.12	住宅改修	2	3	0															
	H30	R1	R2.12																				
住宅改修	2	3	0																				

令和3年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標

オ センター内のスキルアップ

事業内容	令和2年度 活動評価	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価
センター内のスキルアップ		

令和3年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
<p>・3職種それぞれの役割を再認識し、円滑なチームアプローチができる。</p>	<p>1. センター内研修の開催</p> <p>① 介護予防に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルフマネジメントの対象者の理解 ・総合相談の中から、対象者を拾う視点の共有 ・介護保険対象者との違い ・対象者を把握したらどう対応するか <p>② 成年後見制度に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度の概要について再確認 ・成年後見センターや法テラスとの連携方法 ・本人情報シートの記載例を共有 <p>③ ケアマネジャーの個別支援に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのようなケースがケアマネジャーの個別支援にあたるのかを共有 ・別記4号様式の記載方法の再確認 ・別記4号様式の集計・分析からわかること <p>④ 基本情報の収集について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面談時に最低限収集が必要な情報について再確認し、情報収集漏れがないようにする。 <p>⑤ 外部研修参加後、職員へのフィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症現認者研修等の外部研修に参加後、職員へフィードバックし共有する。 <p>2. 権利擁護業務の対応力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士以外の職種が相談の入口から権利擁護相談対応の意識を持つよう、センター内で権利擁護業務について再確認する機会を設ける。 ・社会福祉士以外の職種も、権利擁護事業に関わる研修会や懇談会へ参加する。 ・月1回、センター内で実施しているモニタリング判定会議で、権利擁護ケースの支援経過を共有し、支援の方向性や終結等を3職種で確認する。 <p>3. ケアマネジャーの個別支援の対応力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回、業務カンファレンスの際に、センター独自の「ケアマネ支援モニタリング表」を活用し、支援したケースについて報告、情報共有と終結に向けての協議を行う。 <p>4. センター内の仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待の緊急性の判断について、複数の職種で判断するための仕組みを検討する。 ・夜間、休日の緊急時の対応を整理しフローチャートを作成する。 ・「地域の声」を拾う仕組みづくりの検討を行う。 <p>5. 社会資源の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談内容に応じて、適切な社会資源を情報提供し利用につなげられるよう、社会資源を取りまとめる仕組みを検討する。 	<p>・3職種でケースについて相談した回数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター内研修の開催回数 ・社会福祉士以外の職種が、権利擁護事業に関わる研修会等に参加した回数 ・社会福祉士以外の職種が、権利擁護ケースの主担当を担った件数 ・新規相談で介護予防に関する相談件数 ・新たに情報収集できた社会資源の数、一覧表